

『自分の意見の言える子ども』

子どもに「今日、何が食べたい?」「お休みの日に何して遊ぼうか?」と聞くと、「なんでもいい」「わからない」しか言わない事ありませんか。

大人でも自分の意見を伝えられない人はいますが、はっきりと返事出来ない子どもは意外に多いようです。

子ども自身の年齢や環境なども関係しますが、返事が出来ない、意見が言えないのではなく、「わからないから返事が出来ない」という事もあります。

例えば、「明日、遊園地に行くけど、何に乗りたい?」と聞いても、その場所が初めて行く場所であれば、どんな乗り物があるのかもわかりませんよね。

「どのお話しが聞きたい?」と聞いても「わからない」と答えるのは、答えを求められている事に十分な知識や情報が無いから「わからない」のです。

特に年齢が小さい子どもには、「何がいい?」「どうしたい?」などの質問はなかなか答えられません。

「くるくる回る乗り物と、とても速く走るコースター、どっちに乗りたい?」と必要に応じてヒントを投げかけたり、「『おおきなカブ』のお話しか、『ぐりとぐら』のお話しか、どっちが良い?」と言葉を選択させるなどのサポートする事が大切です。選択質問にすると、「知らないからわからない、答えない」から、一歩進んで「考える力」がついて、正しい表現の仕方など言葉の数も増えていきますよ。

また、小学生くらいになってくると、「自分の意見を言うのが恥ずかしい」「間違っていたらどうしよう」と思う子どもも多いようです。

そんな時、子どもが親と違う答え、選択をしたとしても、内容を頭ごなしに否定するのはNG! 「そういう意見もあるね」とまずは発言した事を認めてあげましょう。

自分の考えを否定されず、聞いてもらえた事によって、「間違える事は恥ずかしい事ではない」という気持ちが子どもの自己肯定感を高めていく事に繋がっていきますよ。